

F/T12

FESTIVAL/TOKYO



東京文化発信
プロジェクト

女司祭—危機三部作・第三部 / クレタクール
作・演出：アールパード・シリング

Crisis Trilogy III: The Priestess / Krétakör
Text, Direction: Árpád Schilling

10/27(Sat) - 30(Tue)

東京芸術劇場 シアターイースト

Tokyo Metropolitan Theatre, Theatre East



2020年オリンピック・
パラリンピックを日本で!

© Krétakör - Máté Tóth Ridoivics



『女司祭』の創作過程 / ポリフォニックなパフォーマンスのために

バーリント・ユハース(演出助手)

『女司祭』は、異なる出自を持つクリエイティブクルーによって製作されている。そこで特筆すべきことは、この作品にかかわった者たちが、皆、それぞれに自身のイデオロギースタンスをめぐる問いへの答えを探しているということだろう。リハーサル過程での私たちの主な目標は、異なる信条を拒絶することなく互いが影響し合うように、全体をまとめていくことだった。この舞台は、私たち一人ひとりの個人的な世界観を表現するための開放的な場でありながら、同時に、問題を共有するための上演のシステムを模索する場ともなる。つまり、私たちは、異なる世界観を持ったパラレルな声が生み出すハーモニーによる、ポリフォニックなパフォーマンスを目指していたのだ。

創作のためのキャンプは3回にわたって行われ、スタッフと出演者たちはそのたびに数日〜数週間をともに過ごした。大人と子供、信心深い者と宗教的こだわりのない者、一般家庭で育った者と施設の出身者、在トランシルバニアのハンガリー人と、同じく在トランシルバニアのロマ人、在ハンガリーのハンガリー人、自由主義者と権威主義的な教育者、共に自らの限界に挑む青年と10代の学生。これら全ての人が同じ創作集団に参加し、互いに心を開ける時を、忍耐強く待った。そしてそれは、もっともありふれた状況だが、私たちそれぞれの世界観の違いが前面に押し出されるような局面において実現された。私たちの共同作業の美点は、創作に関わる仕事が各自に与えられていたことにある。このことは、個々の責任の範囲を限定すると同時に、私たちそれぞれに自由な権限を持つ場を与えてく

れた。これこそが、一つのシステムの中で、多様な意見や手法を共存させるやり方だった。生活上の意見の相違において、妥協は歓迎されない。その主たる理由は、個々の要求ごとに、絶対的な正当性が主張されることにある。しかしながら、演劇においては、私たちは内に抱える葛藤を矛盾のままに語る事が許され、困難を伴う共通の目標の実現のため、あらゆる議論をすることができる。

この作品に関わる人たちは、それぞれのコミュニティの代表として、また彼らの社会的状況を共有する全ての人のために話している。俳優やプロの演劇人は彼らの想像力を通してキャラクターを作り出しているにすぎない。だが、この作品に登場する人々は、彼もしくは彼女のすべて、その存在自体を通し、彼らが実際に所属するコミュニティの全体を表象する。また、子供たちにとってリハーサルは、特定の役柄について学ぶというよりは、リアリティとフィクション、その狭間を行き来しながら、意識的に、遊びのような単純さを持って、他人の前で自分に関わるものごとを直接的に表現する、そのためのエネルギーを放出させる場であった。こうした表現方法は、個人的な経験に焦点をあてながら、なおかつ公の問題を扱うことを可能にした。だがその一方で私たちは、このことが出演者にとっても教育的な効果をもたらすものであってほしいとも願う。自分や自分のコミュニティに起こっている出来事を公の場で述べるという経験は、彼らがそのコミュニティの一員である、という自覚を育むはずだから。

(翻訳: 楯山由香)



トランシルバニア地方の歴史と文化

ラテン語でTranは「彼方」、sylvaは「森」。ルーマニア北西部に位置するトランシルバニア地方は、その名の通り、深い森に囲まれた、ヨーロッパの中でも独自の文化を育んできた地域だ。なかでも自然や動物をモチーフにした民芸品(刺繍や織物が人気)、民謡には、キリスト教以前の民俗信仰やジプシー(ロマ)文化の影響が見られ、エキゾチックでミステリアスなイメージを印象づけている。

主な住民は、ルーマニア人、ハンガリー系のセーケイ人、ドイツ系移民のザクセン人。ルーマニア人とザクセン人は12、13世紀ごろ、セーケイ人は

それ以前からこの地に暮らしている。11世紀にはハンガリー王国に併合され、16世紀にはトルコ勢力下でトランシルバニア公国として独立、だがその後もオーストリア領、ハンガリー領、そしてルーマニア領となった現在まで、統治上の変遷は激しかった。古くはオスマントルコの侵略に脅え(各地に遺る「要塞教会」はその痕跡)、現代においても東欧民主化の激動を経験したトランシルバニア。素朴な中にも奥深い神秘性を感じさせる文化は、こうした複雑な歴史、民族的多様性に裏付けられている。



変化し続ける創造空間 クレタクルの17年

イングリッド・ヘルガ・マイエル(翻訳)

社会主義体制が崩壊(1989年)してから、次々と新しい演劇グループが生まれては消える中で、クレタクルは95年からの17年間も継続して活動を続けている。立ち上げたのは、演出家でもあるアールバード・シリングで、98年からプロデューサー、ガーシュパール・マーテー(2010年まで在籍)と共同で運営を始めた。一般的にはアングラとして定義される劇団だが、彼らは当初からこれを否定し、そうした名目で決定された賞を受け取るのも拒否したりした。

彼らが最初の公演を準備した時に選んだ名前、クレタクル(Krétakör)とは、ハンガリー語で「白墨の輪」の意。それはプレヒトの『コーカサスの白墨の輪』にも由来している。白墨の輪は変化を暗示する。そこは真実が裁かれる場所でもあり、チョークは無常と再生のメタファーでもある。「円を描いて、その円に入れるだけの人数で何かを始める。終わったら白墨の輪を地面から消して、別れる」というのが、本来の意味合いだ。これと同じく、初期のクレタクルは、新しい作品を作る度にチームを集め、終わったら解散するという活動形態をとっていた。また、彼らの活動のモットー「所有権はそれをもっともよく扱えるものに属するべし」も、『コーカサスの白墨の輪』からの引用である。

ハンガリーではいわゆるレパトリーシアターが主流で、常設の劇場に(通常は一つだけの)劇団が所属し、シーズン中、複数の芝居を並行して上演している。クレタクルのように劇場を持たない劇団は少数派だ。彼らは他の劇場を借りたり、もともと劇場ではない(サーカスやブダ城の石窟病院等)場所上演する。始めのうちは彼らも、古典や現代劇の既存の戯曲を扱って

作品を作ったが、次第にテーマを設定して俳優の即興等を取り入れた芝居を作り始めた。また、一度にたくさんの観客を集めて上演するような作品は作らないが、インターネットを活用し、演劇と接点のない人にまでその活動が伝わるようにもしている。こうした活動形態は、ハンガリーではまだ珍しかったが、彼らは自分たちのウェブサイトを通じて、観客と直接コミュニケーションし、演劇をめぐる問題やさまざまな社会的課題についての立場を表明していった。

アールバード・シリングは、95年に劇団を立ち上げた後、ブダペスト演劇大学の演出家コースに入学し、それから5年間大学に通いながらクレタクルの主宰もつとめていた。活動の初期から国外でのフェスティバル等にも参加。2000年までは年に1作品ずつの発表だったが、01年以後は年に3つの作品を発表している。大学を卒業したシリングは国立の劇場等に就職するという選択肢もあったにもかかわらず、クレタクルを継続することを決めた。02年からは、作品ごとに劇団のメンバーが更新されるというシステムを止め、団員がクレタクルに専属するようになり、国内で有名な俳優も入団したほか、シリング以外の演出家も活動に加わった。クレタクルがバリ近くのMC93 Bobigny劇場との協力関係を築き、当地で招待公演や共同制作を行ったのもこの時期のことだった(そのおかげでこの年クレタクルは40人の団員と契約を果たした)。

07年に国内各地の高校で上演したシリング演出の『hamlet.ws』と、ラーン・アンナマーリア演出の『PestiEsti(ペシュティエシュティ)』を最後に、劇団はKrétakör Színházという名前から「劇場」や「芝居」や「演劇」という意味を持つ

színházという言葉を消した。これはただの名義変更ではない。08年以後、彼らはその活動内容を「創造的な共同ゲーム」と定義し、KrétaKör Bázis(=基地、根拠地)という名前の(劇場とは言えないが)場所/空間の運営も始めた。シ

リングは、プロデューサーのグヤーシュ・マルトンとこの場所を運営している。彼らは、演劇の美的な機能よりは社会的役割を重視し、伝統的な演劇の全て(観客、俳優、演出家、作家、空間)を疑い続けている。

ひとつの家族に映るヨーロッパ——『危機三部作』

ハンガリーの首都・ブダペストで活躍し、演劇教師としてルーマニアへと移り住んだ元女優、その夫と息子、それぞれの視点による3つの物語が、映画、オペラ、演劇という異なる芸術形式で展開される。そこで描かれる家族像には、ヨーロッパ社会が抱えるさまざまな問題が映し出されている。

第一部 映画『JP.CO.DE』

夢の中を旅するような構成、実験映画の撮影という設定のなか、家族から離れ、大人へと成長していく息子、パラージュ・ガートの姿を捉える。家族や国家から自由になることは難しい。だが彼は12人の有志とともに、自由を求め、自身の革命を始める——。2011年6月、ブラハ・カドリエンナレにてプレミア上映。ペーテル・ファンチカイ演出。本公演期間中「F/Tテアトロトーク」にて毎日1回上映。



© KrétaKör - Máté Tóth Ridovics

第二部 オペラ『喜ばれざる変人』

家族の長でもある45歳の児童精神分析家、ジュラ・ガートの物語。ある日、彼のクリニックに新しい患者、アダムが訪れる。7件もの子供への性的虐待および殺人の罪で起訴されている彼との会話はやがて、医学のエキスパートであるはずのジュラの立場を問うものになっていく——。2011年7月、ミュンヘン歌劇場で初演。グヤーシュ・マルトン演出。



© KrétaKör - Máté Tóth Ridovics

アールバード・シリング 演出家

1974年ハンガリー生まれ。演出家、KrétaKör(クレタクール/白墨の輪)主宰。19歳で演出活動を始め、95年、ブダペストの演劇・映画大学に入学すると同時にクレタクールを創立。98～2000年にブダペストのカトナ・ヨ・ジェフ劇場で演出家を勤め、99年イシュトヴァーン・タシュナーディ『Public Enemy』の演出でハンガリー批評家賞(次世代演劇プロ部門)を受賞。クレタクールでは、チャーホフ『かもめ』の演出で国際的な注目を浴び、数多くの演劇賞を受賞した。2008年古典戯曲の演出を止め、劇団活動も一時中止。その後、新しい方針に基づき活動を再開。「社会的文脈における芸術の意味」を出発点に、他民族に対する偏見やコミュニティの葛藤に直面するハンガリーやルーマニアの田舎に趣き、そこに住む若者たちとの協同製作を開始した。



© KrétaKör - Máté Tóth Ridovics

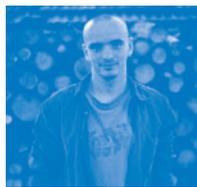
CAST



リラ・シャロシュディ/
リラ・ガート



シャードル・テルヘシュ/
体育教師



ローラント・バルタ/
ローランド神父



マルタ・バイカ(16才)



レヴェンテ・バルタ(17才)



アンナマリア・ダロー(15才)



ヨラーン・ドボンディ(16才)



キケリッチ・カタ・イムレ＝
ムンテアン(16才)



エステル・インツェ(17才)



アッティラ・コマーン(15才)



ヤンカ・コロディ(16才)



エリカ・ルカーチ(17才)



アグネ・マルト(16才)



ティーメア・タンコー(16才)



カールマン・ビーロー(12才)



エメシェ・ボルディジャール
(17才)／映像出演



キング・カタリン・ガーボル
(14才)／映像出演



エルジェーベト・マクシャイ
(17才)／映像出演

作・演出：アールバード・シリング
プロデューサー：マールトーン・グヤーシュ
ツアーマネージャー、演出助手：バーリント・ユハース
制作補佐：クリスティナ・チャーニ
技術監督：アンドラーシュ・エルテト
映像：クリスティアン・バムキ、マーテー・トート・リドヴィッチ、ペーテル・ファンチカイ
出演：ローラント・バルタ、カールマン・ビーロー、リラ・シャロシュディ、シャンドル・テルヘシュ、マルタ・バイカ、レヴェンテ・バルタ、エメシエ・ボルディジャー、アンナマリア・ダロー、ヨラーン・ドボンディ、キンガ・カタリン・ガール、ケケリッチ・カタ・イムレムンテアン、エステル・インツェ、アツティライ・コマン、ヤンカ・コロディ、エリカ・ルカーチ、エルジェーベト・マクシャイ、アーグネ・マールト、ティーマ・タンコー

製作：クレタクル
ワークショップパートナー：オシノノ劇場ワークショップ、ミハイ・ファゼカシュ
協力：トラフォー現代芸術館、ハンガリー国立文化基金(NKA)、ペトレン・ガール基金、ハンガリー国家人材資源省(EEMI)、ハンガリー外務省

東京公演スタッフ
技術監督：寅川英司+鴉屋
技術監督アシスタント：河野千鶴
舞台監督：田中翼
演出部：佐藤 豪
美術コーディネーター：福島奈央花
照明コーディネーター：佐々木真喜子(株式会社ファクター)、岡本沙知恵(株式会社ファクター)
音響コーディネーター：相川 晶(有限会社サウンドウイズ)
映像コーディネーター：遠藤 豊(ルフトワーク)
字幕アドバイザー：幕内 寛(舞台字幕/映像 まくうち)
翻訳：イングリッド・ヘルガ・マイエル
通訳：クリスティナ・メレニ

記録写真：片岡陽太
記録映像：クレタクル、雷田了平

ワークショップ協力校：明治大学付属明治高等学校
ワークショップ協力：高橋通泰、坂口泰通
ワークショップアシスタント：山田千尋

F/Tスタッフ
制作統括：武田知也、小島寛大
制作：榎山由香、ウルリケ・クラウトハイム
制作補佐：丑山佐枝子
フロント運営：北澤美未子
インターン：吉崎香央里
プログラム・ディレクター：相馬千秋

F/Tクルー：増渕圭、岡本佳子、霜島桃子、福原麻梨子、斎藤 望

後援：駐日ハンガリー大使館
主催：フェスティバル・トーキョー

Text, Direction: Árpád Schilling
Production: Márton Gulyás
Tour Management, Assistant Direction: Bálint Juhász
Production Assistant: Krisztina Csányi
Technical Manager: András Élertő
Video: Krisztián Pamuki, Máté Tóth Ridovics, Péter Fancsikai
Cast: Lóránd Bartha, Kálmán Bíró, Lilla Sárosdi, Sándor Terhes, Márta Bajka, Levente Bartha, Emese Boldizsár, Annamária Daró, Jolán Dobondi, Kinga Katalin Gábor, Kikeric, Kata Imre-Muntean, Eszter Incze, Attila Komán, Janka Korodi, Erika Lukács, Erzsébet Maksi, Ágnes Márton, Mónika Tímea Tankó

Produced by Krétakör
Workshop Partner: Osonó Színházműhely, Mihály Fazakas
In co-operation with Trafó - House of Contemporary Arts, Hungarian National Cultural Fund (NKA), Bethlen Gábor Alap, Human Resources Ministry of Hungary (EEMI), Ministry of Foreign Affairs, Hungary

Tokyo Performance Staff
Technical Manager: Eiji Torakawa + Karasuya
Assistant Technical Manager: Chizuru Kono
Stage Manager: Tsubasa Tanaka
Stage Assistants: Go Sato
Stage Design Co-ordination: Naoka Fukushima
Lighting Co-ordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.), Sachie Okamoto (Factor Co., Ltd.)
Sound Co-ordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)
Video Co-ordination: Yutaka Endo (LUFZUG)
Surtitles Advisor: Satoru Makuuchi
Translation, Surtitles: Ingrid Helga Mayer
Interpretation: Krisztina Merényi

Photography: Yohta Kataoka
Video Documentation: Krétakör, Ryohei Tomita

Workshop Partner School: Meiji University Meiji High School
Special thanks to Michiyasu Takahashi, Yasumichi Sakaguchi
Workshop Assistant: Chihiro Yamada

Festival/Tokyo Staff
Production Manager: Tomoya Takeda, Hiroto Kojima
Production Co-ordination: Yuka Sugiyama, Ulrike Krauthaim
Assistant Production Co-ordination: Saeko Ushiyama
Front of House: Fumiko Kitazawa
Trainee: Kaori Yoshizaki
Program Director: Chiaki Soma

F/T Crew
Kei Masubuchi, Yoshiko Okamoto, Momoko Shimotori, Mariko Fukuhara, Nozomi Saito

Endorsed by Embassy of Hungary
Presented by Festival/Tokyo

ポスト・パフォーマンス・トーク(日本語・ハンガリー語逐次通訳あり)

10/28(日) キャスト、スタッフ、明治大学付属明治高等学校有志の皆さん(※)

※クレタクルとF/Tが共同開催する、演劇を通じて社会や教育を考えるユース・プログラムの参加者

10/29(月) 「危機三部作」各作品の演出・プログラマー：ペーテル・ファンチカイ、マールトーン・グヤーシュ、バーリント・ユハース

